

2020年1月28日(火)

老球の細道521号

## 大相撲が面白い

会津バスケットボール協会 室井 富仁

初めてテレビを見たのは小学2年生の頃だったのだろうか。熱狂して観たのは相撲とプロレスだった。相撲は所謂「栃若」「柏鵬」、プロレスは「力道山」。テレビを観た翌日は必ず、学校や近所の空き地で相撲、プロレスをしたことが懐かしく思い出される。特に相撲は大好きで、空き地に土俵を作り、年齢に関係なく地域の子供たちで試合をしたものである。私はそんなに強くはなかったが、右四つに組んで、相手の力を利用して引き倒しをするのが得意だった。子供時代の相撲やプロレス(得意技はコブラツイスト、ジャイアントスイング、頭突き等)が功を奏し、バスケットボールでのコンタクトプレイには強くなったかもしれない。どこで何が役に立つかわからないものである。万事世の中ムダはない。

最近相撲界の不祥事などが相次ぎ、大相撲には興味を失っていたが、昨日終了した「大相撲初場所」は3つの点で非常に興味深く観戦していた。

### ① 幕内番付け最下位の力士「徳勝龍」(33歳 西前頭17枚目)が初優勝

これまで10年以上角界で目立った成績を残さず、30歳を超えた最近十両と幕内を行ったり来たり力士が、上位力士を次から次へと撃破し、驚異の大番狂わせで優勝した。

日頃、あちこちの大会の挨拶で番狂わせを起こし、大会を盛り上げようと話していたところなので、今回の番狂わせは大変刺激になった。たとえ弱くても粘り強く頑張り続けていれば、チャンスはやってくることを教えてくれた。あきらめてはいけないのである。

### ② 小兵「炎鵬」の「小は大を凌駕する」戦略、戦術の巧みさ

体重150kg、身長180cmを超えるサイズが普通の大相撲で体重99kg、身長168cmの炎鵬は飛びぬけて小さい。しかし、勝負が始まると意表を突く作戦と技で大男をやっつける。横綱不在の場所で常にお客さんが大入り満員なのは炎鵬の人気によるところが大きい。

バスケットボール界ではビッグマンがいないと勝てないとあきらめる選手やコーチが多いが、小さくても戦える道は必ずあることを炎鵬は教えてくれた。今やBリーグでも富樫選手、福岡第一の河村選手など一寸法師選手が大男を翻弄している。

### ③ 横綱の品格?

横綱力士達は社会の「働き改革」を先取りか。ちょっと負けるとすぐに休場する。新聞では「稽古場は本場所のように、本場所は稽古場のように」と言われて、番付の上位者ほど量と質の高い稽古をして他を圧倒していたが、最近力を温存する稽古が増えてきた。効率的な練習ということをはき違えてきた」と番付上位力士を批判。

地位の高い者ほど中身の濃い稽古をしないと番付け上位は守れない。ちょっと油断すると下克上の嵐が吹き荒れる。バスケットボール界も同じである。強いチーム、強い選手ほど質、量ともに最高の練習をする。どんな世界も原理原則は共通である。